

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	杏番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成28年 1 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々が出来ること、やりたいことは二人三脚のような形で行えるようにしている。又、施設内で過ごす事だけではなく、定期的に外出や散歩など四季を感じていただく事が出来る様行事にも力を入れている。特に夏祭りでは町内会の方やご家族様も招待し関わりを持てるようにしている

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富沢駅西方の静かな郊外にある3ユニットからなるホームである。ホームの「優しく楽しく暖かく」の理念を基に、各ユニットがそれぞれの目標を作って支援している。ホームに隣接して同法人の仙台富沢病院があり、入居者の3分の1が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けている。医療・介護一体の支援体制ができています。入居者のできることやりたいことを理解し、職員と共に取り組み、生き甲斐をもって暮らせるよう支援し、職員は悔いの残らない介護を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 壱番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成している。理念を実践するために施設としての目標、ユニットとしての目標を策定し理念に少しでも近づける事が出来るように努めている	「優しく楽しく暖かく」を理念に、各ユニットが目標をそれぞれ定め、入居者も職員も共に今日を楽しく充実した生活にするよう努めている。植物の育て方や家事を教えてもらう等、共に助け合い生活を楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、町内会での行事に参加させていただいている中で地域の方と交流をさせて頂いている。	ホームで実施する夏祭りは、テント設営等開催準備も地域住民の支援を得て、地域住民や家族約百名が参加し賑わった。町内会の秋祭りには入居者約半数が、歩いたり車イス及び車両で、参加して楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームは、どのような所でどのような場所なのか地域の認知症家族の会などに参加しPRさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで運営推進会議を行っており、その場で出た意見などは職員で検討し、会議に参加して頂いているメンバーや職員と一緒により良い生活の場所に出来る様話し合いを行っている	メンバーは、町内会副会長、民生委員、地域包括職員とホーム職員であり、家族にも声を掛けている。「ホームが雑然としている」の意見に後片付けに留意し、「筋力維持が必要ではないか」に外出を増やす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事は市町村に確認を取るようにしている。又、広報誌を仙台市や区役所に送付している	介護報酬に関する問い合わせをしたり、入居者の住所をホームに移すべきかどうか等を市職員に確認している。「運営推進会議参加時の交通費の支払いの在り方」について、相談したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしてはいけない事と職員一人一人が認識をして取り組んでいる。細かい内容などは委員会を設置し勉強会や研修会へ参加し持ち帰ったものを周知し全員が間違ったケアをしていないか話し合い、どうすれば防止できるか考える機会を設けている	言葉使いで「ちょっと待って」と言わないように配慮し、そのような場合は「食器を置いてからすぐ行きますから」等付け加えるようにする。食事も強く勧めるのは拘束に当たらないか等、見直ししながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、定期的にスタッフが集まり勉強会を勉強会を行っている。何がどのようにいけないのかを考え、自分たちのケアが無意識に虐待に近い事につながっていないか考える機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、制度が必要な方に対して適切な支援をする事ができる様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけわかりやすく説明するように心がけている。又、不明の点があればその都度話して頂く様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員はご家族様に対して何でも話して頂けるよう関係性を作っている。又、話づらいことなどあれば意見箱を設置している為そこにに入れて頂く様話をしている	遠慮がちで意見が出難いが、職員との対話で「部屋の掃除をもっときれいにして欲しい」「髪を切りに連れて行って欲しい」の要望を引き出し、対応している。家族と外出する場合の、トイレ等支援の仕方を伝えている、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設けており、委員会の会議に時折参加している。そのときに出された意見などは出来るだけ取り入れる様にしている	子育て中の職員が、保育園や学校から帰る前に帰れるよう、配慮している。避難のマニュアルを見直し、分かりやすく簡易化した。看取りの不安に対し、看取りに対する心構え等を管理者が指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの能力に応じて出来る事をしっかり行っているかを見極め、給与水準に反映している。又、労働時間は出来るだけ相談に応じる様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人医療機関にて行われる勉強会や研修会にホームの職員も参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別の事業所と交流を持つ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報にとらわれず、ご本人様が入居にあたっての不安や疑問、要望を遠慮せず話して頂けるようにこちらからも働きかける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても、今困っている事はもちろん、不安なことや要望はいつでも話して頂けるように関係性を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様にはグループホームの入居という選択肢だけではなく、状況に合わせたサービスの利用も進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの生活の中で行う作業、家事活動等出来る事は出来るだけ行って頂けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらしたときに、ご本人様の様子を伝えそこから情報を共有し、ご家族様と共にご本人様を支えて行けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様が行っていた美容室やお店などお聞きし出来るだけ継続して利用して頂ける様に努めている	入居者の自宅の近所の方が来訪する。外出先に、希望する三越や藤崎デパート等に出掛けることがある。入居してから馴染みになった理髪店もある。十年前に亡くなった人の家族が、入居者と談話に寄る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状況や好みを把握し、一人が好きなのか、大人数で話したいのか、気の合う人だけが近くに居ればいいのかを見極めを行い適切に支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談に来られるご家族様もおりそのつど対応させていただいている。そして、ご家族様が納得して頂けるように支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、希望や要望をくみ取りその時の表情や発言を記録に残し、申し送る事で情報の共有している。自分の思いを表現できる方はもちろん、出来ない方でも、ご家族様に情報を頂き行動は表情からくみ取るようにしている	表情が明るくなるかどうかを観察し、思いの把握に努めている。家族から「演劇が好きだった」と聞き、そのようなテレビを見ると懐かしい様子となる。食事で嫌いなものはむせるが好きな甘いものは飲み込める人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの習慣や趣味などをご本人様やご家族様からお伺いし少しでもその方の生活を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人一人が入居者様の生活の場面で出てきた言動、動きをケース記録に残す事で、その場に居なかったスタッフにも伝え把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランに沿ってサービス提供を行い、実行してみてどうだったかを記録に残すとともに、面会時にご家族様から意向をうかがう事で情報を集め計画に反映させている	園芸をやりたい人たちに、作りたい野菜、水やりの世話等を計画した。卓球が上手だった人が今でも上手だということを発見し、他のホームの入居者と卓球を楽しむと共に、コミュニケーションも向上した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実践したケアと、その反応とを記録に残し、ユニット会議で個別検討を行い、現状の把握と情報の共有と意見交換を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が希望される時やスタッフの方でも必要と判断した場合はそのニーズに合わせたサービスを取り入れる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に美容院や、車椅子のレンタルを行う大型の商業施設が多くあり、本人様の希望に合わせて外出の機会を多く設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望される時は、継続してかかりつけ医に受診して頂く様にしている。又、その時の状態に合わせて往診などお勧めするようにしている	かかりつけ医を利用する入居者は数名で、かつての近隣の方々との交流も楽しみにしている。家族と受診した時は報告を聞き、受診報告書に記入する。往診を受けている人は入居者の約3分の1である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で、変化や、気づいた点は随時報告、相談し指示を仰いでいる。又、申し送りの際は看護師も参加し、状態の把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーなどにその方の状態を詳細に記入し、ムンテラの際には職員も同席させて頂き、退院後のバックアップを図れるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に看取りまで希望されるか確認し、希望されれば、それに沿えるように支援している。又、入居時に希望されていない時も、その都度説明させて頂いている	管理者が看護師も交えて看取りの勉強会を実施している。看取りの経験から、入居者が平穏に起床を迎えることが一日の大切な始まりと喜び、常に悔いのないお世話をするよう心掛け、介護にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応についてマニュアルとフローチャートを作成している。又、新人へとマニュアルの説明と教育を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害ごとのマニュアルを整備している。定期的に訓練を行うと共に、ハザードマップを掲示し、地域の避難場所も把握できるようにしている	夜間想定訓練を2回実施した。「無駄な動きが多かった」「避難した人の把握不十分」等の反省を活かし、避難方法の改善に活かした。訓練に大家さんが参加する。目標達成計画は改善した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	汚染時や、何か失敗された際は迅速に対応し、落ち込まれたりすることのないように、配慮ある声がけを行うように努めている	入居者が「できる」と思っている部分を尊重し、過度に手助けしないよう留意している。トイレを失敗した時は「すぐ着替えができるから大丈夫です」と何事もなかったように素早く対応し、心配をかけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択可能な場面では職員で決めてしまわず、希望を聞けるようにし、難しい場合は選択肢を絞らせていただいたり、その方がわかりやすい言葉にかえて伝える様にしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や、入浴のタイミング等、可能な限りその方が過ごしてきた習慣をづづけて頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものは出来るだけ本人様に選んで頂き、外出の行事の際はお化粧の手伝いや、コーディネートの手伝いを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り参加して頂き、どのように調理したらおいしく食べる事が出来る聴きながら作業して頂いている	献立はユニットごと職員が作り、食材は配達してもらい調理は職員がする。入居者は米とぎ、もやしの根取り等をする。煮物やお肉の好きな人が多い。栄養バランスは同法人の管理栄養士に見てもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表へと記入を行い把握し不足しうであれば補食の提供や代替品の提供を行っている。又、その方一人一人に合わせた食形態を工夫し、食事をするという事を継続して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方であれば、声がけ、セッティングを行い、難しい方であれば介助させていただく事で口腔内の清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、その方の排泄パターンを把握する事が出来るように、可能な限り、トイレに間に合うように支援している	排泄の自立に近い人が約3分の1、オムツは数名で他はリハビリパンツとパッドである。トイレ誘導に努めており、応じない時には「トイレ掃除終わったところだから」とか「今しておく朝までゆっくりできますよ」等声掛けをする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、入浴時のマッサージを行い、自然に排便できるように促している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の生活習慣や希望、その日の体調や気分に合わせて声がけを行うようにしている	週2~3回入浴する。入浴剤、柚子湯、菖蒲湯等を楽しむ。一番風呂を好む人もいる。拒む時には「ご飯の後でゆっくりできるから」「明日、お出掛けだから」等声を掛ける。重度の方も職員2人の支援で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の体調に合わせて居室にて休んで頂いている。又、日中の活動を通して夜間よく休んで頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は、誤薬等しないように確認を行い、処方に変更があった場合は、なぜ変更になったのかを含めて申し送るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が何をやりたいかを、発言、行動から読み取るようにし、ご家族様の情報なども職員同士で共有し、機会の提供に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、散髪など希望を聞いたり、こちらで声がけさせて頂くなどして機会の提供を行っている	季節の外出は、春の花見、夏の秋保・里センターの七夕、秋の紅葉狩り、正月の初詣等である。日常的には近所を散歩する。重度の方も隣接している保育園を訪問し、園児との交流を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、自己管理が可能な方であれば、本人様にも管理して頂く様に支援している。また、それぞれの財布に名前を分かりやすく記入し、買物の際に持っていたく事で安心して買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎを行い、耳が遠い方に関してはスタッフが代行するなどして対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節ごとに飾りつけを行い花なども手入れして頂けるようにしている。屋外のプランターでは花や野菜などを育て、季節感を感じられるようにしている	食堂に、入居者の習字、塗り絵、貼り絵を飾り、職員が作った大きな雪だるまや干支の猿の飾りを飾っている。玄関に、ホームの活動状況の写真を貼っており、個人の写真は家族が持ち帰れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などある程度固定された席の他にレクリエーションや家事などの際は同じ趣味の方等が集まれるように席をその都度変えて対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には介助のしやすさではなく、その方の使い慣れたものを持って来て頂く様に声がけさせていただいている	空調、ベッド、タンスは備え付けである。使い慣れた学習机やタンスを持ち込み、家族の写真等を飾っている。ベッドはエアコンの直下を避け、入居者の動きを考慮した位置・向きにする等、暮らしやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来ること、分かる事を職員間で情報を共有し把握する事で継続して頂けるよう支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	貳番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成28年 1 月 7 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間の目標を立てその目標を達成できるように、入居者様の個々に合わせた支援を行うことが出来るように努めている。又、地域の行事にも参加し地域の方々と交流を深めるいい機会となっている。入居者様一人一人が笑顔で過ごして頂けるように、利用者の方々の思いを大切にしながらケアにあたっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

富沢駅西方の静かな郊外にある3ユニットからなるホームである。ホームの「優しく楽しく暖かく」の理念を基に、各ユニットがそれぞれの目標を作って支援している。ホームに隣接して同法人の仙台富沢病院があり、入居者の3分の1が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けている。医療・介護一体の支援体制ができている。入居者のできることやりたいことを理解し、職員と共に取り組み、生き甲斐をもって暮らせるよう支援し、職員は悔いの残らない介護を心掛けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 貳番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた目標を1年ごと、ユニットごとに集まり、話し合い、目標を立て、半年ごとに目標を振り返り話し合い、反省し実現できるようにしている	「優しく楽しく暖かく」を理念に、各ユニットが目標をそれぞれ定め、入居者も職員も共に今日を楽しく充実した生活にするよう努めている。植物の育て方や家事を教えてもらう等、共に助け合い生活を楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域の方々との地域の行事(お祭り等)に参加し出来るだけ交流を持つようになっている	ホームで実施する夏祭りは、テント設営等開催準備も地域住民の支援を得て、地域住民や家族約百名が参加し賑わった。町内会の秋祭りには入居者約半数が、歩いたり車イス及び車両で、参加して楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にも理解して頂けるよう、町内に広報誌を回覧して頂き、玄関先に園芸や野菜を作る事で入居者の方々の顔が見えるような活動を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者にはホームの良い点や改善点をあげて頂き全体会議で皆で話し合い、サービス向上に繋げることが出来る様にしている	メンバーは、町内会副会長、民生委員、地域包括職員とホーム職員であり、家族にも声を掛けている。「ホームが雑然としている」の意見に後片付けに留意し、「筋力維持が必要ではないか」に外出を増やす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事は市町村に確認を取るようになっている。又、広報誌を仙台市や区役所に送付している	介護報酬に関する問い合わせをしたり、入居者の住所をホームに移すべきかどうか等を市職員に確認している。「運営推進会議参加時の交通費の支払いの在り方」について、相談したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設けており、月に一度は集まり勉強会を行い、身体拘束についての理解を深め、今対応している入居者の行動を理解し、職員全体で行動を理解し、みんなで情報を共有し対応の検討を行っている	言葉使いで「ちょっと待って」と言わないように配慮し、そのような場合は「食器を置いてからすぐ行きますから」等付け加えるようにする。食事も強く勧めるのは拘束に当たらないか等、見直ししながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設けており、月に1度は集まり勉強会を行い虐待についての理解を深め今対応している入居者の行動を理解し皆で情報を共有し対応し検討を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、制度が必要な方に対して適切な支援をする事ができる様にしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけわかりやすく説明するように心がけている。又、不明の点があればその都度話して頂く様にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や要望等の用紙より、お困りのことや要望等が無いか確認するようにし、ご家族様のご意見などは会議の場などで話し合うようにしている	遠慮がちで意見が出難いが、職員との対話で「部屋の掃除をもっときれいにして欲しい」「髪を切りに連れて行って欲しい」の要望を引き出し、対応している。家族と外出する場合の、トイレ等支援の仕方を伝えている、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各委員会を設けており、委員会の会議に時折参加している。そのときに出された意見などは出来るだけ取り入れる様にしている	子育て中の職員が、保育園や学校から帰る前に帰れるよう、配慮している。避難のマニュアルを見直し、分かりやすく簡易化した。看取りの不安に対し、看取りに対する心構え等を管理者が指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人ひとりの能力に応じて出来る事をしっかり行っているかを見極め、給与水準に反映している。又、労働時間は出来るだけ相談に応じる様にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人医療機関にて行われる勉強会や研修会にホームの職員も参加させて頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の別の事業所と交流を持つ機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様や、ご家族様から不安な事や困っている事を聴取し出来るだけ安心して過ごして頂けるように支援しコミュニケーションを図るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で、ご家族様が不安に思っている事や要望を聴取しながら不安を取り除き安心して頂けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様からの情報を聴取し、現状把握に努め、その都度サービスに反映できるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様がどんな暮らしをしたいのか、又快適に過ごせるのか考え、共に暮らし助け合いながら生活しているという事を感じて頂けるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様から話を聞き、ご本人様の現在の状況を共有しながら話し合う事で、職員とご家族様と一緒にご本人様を支える関係を作っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様から馴染みの場所や人等を聴取し、その関係が亡くならないように努めている	入居者の自宅の近所の人々が来訪する。外出先に、希望する三越や藤崎デパート等に出掛けることがある。入居してから馴染みになった理髪店もある。十年前に亡くなった人の家族が、入居者と談話に寄る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格や、趣味等を考慮し、スタッフが間に入りきっかけを作る事でユニット内だけではなく、ホーム全体でコミュニケーションを図るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談に来られるご家族様もおりそのつど対応させていただいている。そして、ご家族様が納得して頂けるように支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様のニーズを探る為に、積極的に関わりを持ち、得られた情報を会議などを通して皆で共有するようにしている。又、本人様から希望の聴取が難しい場合はご家族様から情報を提供して頂いている	表情が明るくなるかどうかを観察し、思いの把握に努めている。家族から「演劇が好きだった」と聞き、そのようなテレビを見ると懐かしい様子となる。食事で嫌いなものはむせるが好きな甘いものは飲み込める人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの習慣や趣味などをご本人様やご家族様からお伺いし少しでもその方の生活を把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にその方の状態や発言、それに対する対応、およびその反応を記載し会議の際に個別検討を行うなどして現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々積極的に関わる事で、その中で得られた意向や、ご家族様からの希望等をどのようにすれば達成できるか、カンファレンスで話し合っている	園芸をやりたい人たちに、作りたい野菜、水やりの世話等を計画した。卓球が上手だった人が今でも上手だということを発見し、他のホームの入居者と卓球を楽しむと共に、コミュニケーションも向上した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にケアプランを実践した結果や反応を記載し、また、今後のケアプランに反映出来るように記録に残すようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前から利用されているサービスがあり、利用を継続したいという希望があれば、ホームの枠にとらわれず利用して頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に美容院や、車椅子のレンタルを行う大型の商業施設が多くあり、本人様の希望に合わせて外出の機会を多く設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様が希望される時は、継続してかかりつけ医に受診して頂く様にしている。希望される医療機関が無い場合は協力医療機関を紹介している。又、その時の状態に合わせて往診などお勧めするようにしている	かかりつけ医を利用する入居者は数名で、かつての近隣の方々との交流も楽しみにしている。家族と受診した時は報告を聞き、受診報告書に記入する。往診を受けている人は入居者の約3分の1である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の生活の中で、変化や、気づいた点は随時報告、相談し指示を仰いでいる。又、申し送りの際は看護師も参加し、状態の把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際はサマリーなどにその方の状態を詳細に記入し、ムンテラの際には職員も同席させて頂き、退院後のバックアップを図れるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様やご家族様に確認し、看取りを希望されるのであれば対応できるように支援している。又、終末期についての勉強会を行い理解を深めている	管理者が看護師も交えて看取りの勉強会を実施している。看取りの経験から、入居者が平穏に起床を迎えることが一日の大切な始まりと喜び、常に悔いのないお世話をするよう心掛け、介護にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際マニュアルを作成し、勉強会を通し理解を深めている。急変が予測される場合は看護師や医療機関とその都度連絡し相談している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間帯、地震、火災等様々なシチュエーションでの訓練を行っている。そこで出された反省点など今後に生かせるようにしている	夜間想定訓練を2回実施した。「無駄な動きが多かった」「避難した人の把握不十分」等の反省を活かし、避難方法の改善に活かした。訓練に大家さんが参加する。目標達成計画は改善した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄、更衣等は利用者様の生活リズム、習慣を尊重している。出来るだけ利用者様のストレスをかけずに済むよう、環境を整え、気を配るようにする	入居者が「できる」と思っている部分を尊重し、過度に手助けしないよう留意している。トイレを失敗した時は「すぐ着替えができるから大丈夫です」と何事もなかったように素早く対応し、心配をかけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様と日々接する中でなるべく利用者様の気持ちをきく事が出来るような問いかかけを行うようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や、入浴のタイミング等、可能な限りその方が過ごしてきた習慣をづづけて頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己表現のひとつである、身だしなみ、おしゃれに無関心にならないように、季節に合ったもの、サイズの合ったものを提供し気を配っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最初から最後まで難しいが、一人ひとりのできることを行っていただけるように支援している。食事作り参加して頂き、どのように調理したらおいしく食べる事が出来る聴きながら作業して頂いている	献立はユニットごと職員が作り、食材は配達してもらい調理は職員がする。入居者は米とぎ、もやしの根取り等をする。煮物やお肉の好きな人が多い。栄養バランスは同法人の管理栄養士に見てもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表へと記入を行い把握し不足しうであれば補食の提供や代替品の提供を行っている。又、その方一人一人に合わせた食形態を工夫し、食事をするという事を継続して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方であれば、声かけ、セッティングを行い、難しい方であれば介助させていただく事で口腔内の清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながらそれぞれに合わせた誘導を行っている。下剤内服時は通常時以外も様子を見ながら、声がけや誘導を行うようにしている	排泄の自立に近い人が約3分の1、オムツは数名で他はリハビリパンツとパッドである。トイレ誘導に努めており、応じない時には「トイレ掃除終わったところだから」とか「今しておく朝までゆっくりできますよ」等声掛けをする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の提供や、トイレ時に温タオルで腹部を温めたり、マッサージを行うようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の生活習慣や希望、その日の体調や気分に合わせて声がけを行うようにしている	週2～3回入浴する。入浴剤、柚子湯、菖蒲湯等を楽しむ。一番風呂を好む人もいる。拒む時には「ご飯の後でゆっくりできるから」「明日、お出掛けだから」等声を掛ける。重度の方も職員2人の支援で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの方の状態や体調に合わせて1時間ほど休んで頂いている。又、日中の活動を通して夜間よく休んで頂けるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情をいつでも目が通せるようにケース記録にはさみ、確認できるようにしている。内服時はダブルチェックを行い誤薬防止に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の方がしたいこと行って頂けるよう好みを把握し、必要であれば一部介助等で継続出来る様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物に外出したり、外気浴等も行っている。普段いけない所にも、定期的には外出出来る様に行事を計画している	季節の外出は、春の花見、夏の秋保・里センターの七夕、秋の紅葉狩り、正月の初詣等である。日常的には近所を散歩する。重度の方も隣接している保育園を訪問し、園児との交流を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、自己管理が可能な方であれば、本人様にも管理して頂く様に支援している。また、それぞれの財布に名前を分かりやすく記入し、買物の際に持っていたく事で安心して買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎを行い、耳が遠い方に関してはスタッフが代行するなどして対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下に自分が生活しているという生活感が出る様に写真を飾ったり季節を感じる花や、飾り物を飾ったり、暖かな空間を目指している	食堂に、入居者の習字、塗り絵、貼り絵を飾り、職員が作った大きな雪だるまや干支の猿の飾りを飾っている。玄関に、ホームの活動状況の写真を貼っており、個人の写真は家族が持ち帰れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席を好まれる方はソファ席に座って頂く等、色々な空間を提供している。その方の好みや状態に合わせて各々つろいでいただいている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様には介助のしやすさではなく、その方の使い慣れたものを持って来て頂く様に声がけさせていただいている	空調、ベッド、タンスは備え付けである。使い慣れた学習机やタンスを持ち込み、家族の写真等を飾っている。ベッドはエアコンの直下を避け、入居者の動きを考慮した位置・向きにする等、暮らしやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来ること、分かる事を職員間で情報を共有し把握する事で継続して頂けるよう支援している		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0475401014		
法人名	仙台医療福祉会		
事業所名	やすらぎホーム富沢	ユニット名	参番館
所在地	仙台市太白区富沢字寺城28-1		
自己評価作成日	平成28年 1 月 7 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者の方々が日々楽しく生活が出来る様、スタッフ同士で意見を出し合い何を好まれるのか、どのような反応をするのか等情報の共有をしている。誕生日には、その方の好みの物を食べる為外出したり、行事の際には花見や紅葉等季節を感じて頂けるよう外出の機会を作っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成28年 1月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>富沢駅西方の静かな郊外にある3ユニットからなるホームである。ホームの「優しく楽しく暖かく」の理念を基に、各ユニットがそれぞれの目標を作って支援している。ホームに隣接して同法人の仙台富沢病院があり、入居者の3分の1が「仙台在宅支援診療所」の訪問診療を受けている。医療・介護一体の支援体制ができている。入居者のできることをやりたいことを理解し、職員と共に取り組み、生き甲斐をもって暮らせるよう支援し、職員は悔いの残らない介護を心掛けている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 やすらぎホーム富沢)「ユニット名 参番館 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成している。理念を実践するために施設としての目標、ユニットとしての目標を策定し理念に少しでも近づく事が出来るように努めている	「優しく楽しく暖かく」を理念に、各ユニットが目標をそれぞれ定め、入居者も職員も共に今日を楽しく充実した生活にするよう努めている。植物の育て方や家事を教えてもらう等、共に助け合い生活を楽しんでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや、保育園などに行くことが出来るように支援している。町内会に参加しており、町内会での行事に参加させていただいている中で地域の方と交流をさせて頂いている。ホームでの祭りにも参加して頂けるようお声がけさせていただいている	ホームで実施する夏祭りは、テント設営等開催準備も地域住民の支援を得て、地域住民や家族約百名が参加し賑わった。町内会の秋祭りには入居者約半数が、歩いたり車イス及び車両で、参加して楽しんだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を発行し町内会に回覧をお願いしている。グループホームは、どのような所でどのような場所なのか地域の認知症家族の会などに参加しPRさせて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回のペースで運営推進会議を行っており、その場で出た意見などは職員で検討し、会議に参加して頂いているメンバーや職員と一緒により良い生活の場所に出来る様話し合いを行っている	メンバーは、町内会副会長、民生委員、地域包括職員とホーム職員であり、家族にも声を掛けている。「ホームが雑然としている」の意見に後片付けに留意し、「筋力維持が必要ではないか」に外出を増やす努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点や分からない事は市町村に確認を取るようにしている。又、広報誌を仙台市や区役所に送付している	介護報酬に関する問い合わせをしたり、入居者の住所をホームに移すべきかどうか等を市職員に確認している。「運営推進会議参加時の交通費の支払いの在り方」について、相談したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やすらぎホーム富沢では身体拘束は行っていない。このことを前提に委員会のメンバーが中心となり自分たちのケアをその都度見直しを行い自分たちのケアが拘束に当たらないか常に見直しをかけている	言葉使いで「ちょっと待って」と言わないように配慮し、そのような場合は「食器を置いてからすぐ行きますから」等付け加えるようにする。食事も強く勧めるのは拘束に当たらないか等、見直ししながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置しメンバーが中心となって勉強会、資料作り、配布し自分のケアが虐待に当たらないか常に見直しをかけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修に参加し、制度が必要な方に対して適切な支援をする事ができる様になっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたっての必要事項を十分に説明しご理解を頂いている。又、入居中の不安などはその都度声がけて対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂いた方々より頂いた意見は、日々の生活に活かせるよう努めている	遠慮がちで意見が出難いが、職員との対話で「部屋の掃除をもっときれいにして欲しい」「髪を切りに連れて行って欲しい」の要望を引き出し、対応している。家族と外出する場合の、トイレ等支援の仕方を伝えている、	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議などに出た、意見や要望は管理者より本部に伝え、今後の支援に活かせるようにしている	子育て中の職員が、保育園や学校から帰る前に帰れるよう、配慮している。避難のマニュアルを見直し、分かりやすく簡易化した。看取りの不安に対し、看取りに対する心構え等を管理者が指導している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各業務において、自己の責任を持ちながら担当・役割分担している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自向上心が持てるように研修に参加を促したり、新たな資格取得へ向けてアドバイスしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修への参加などを通して他の施設などの同業者との交流を通し情報交換などを行い、自分たちの施設のサービスに反映できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の話も聞いているが、それだけではなく言葉じゃなくとも信頼関係を気付けるようにしている。ご本人様が入居にあたっての不安や疑問、要望を遠慮せずに話して頂けるようにこちらからも働きかける様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に対しても、今困っている事はもちろん、不安なことや要望はいつでも話して頂けるように関係性を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様にはグループホームの入居という選択肢だけではなく、状況に合わせたサービスの利用も進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームの生活の中で行う作業、家事活動等出来る事は出来るだけ行って頂けるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会にいらしたときに、ご本人様の様子を伝えそこから情報を共有し、ご家族様と共にご本人様を支えて行けるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が面会に来られたり、ご本人様が今まで通っていたお店等への外出支援を行っている。本人様が行っていた美容室やお店などお聞き出来るだけ継続して利用していただける様に努めている	入居者の自宅の近所の方が来訪する。外出先に、希望する三越や藤崎デパート等に出掛けることがある。入居してから馴染みになった理髪店もある。十年前に亡くなった人の家族が、入居者と談話に寄る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状況や好みを把握し、一人が好きなのか、大人数で話したいのか、気の合う人だけが近くに居ればいいのかを見極めを行い適切に支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも相談に来られるご家族様もおりそのつど対応させていただいている。そして、ご家族様が納得して頂けるように支援させていただいている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分で話す事が可能な方は、日中は本人様の得意な事や好きな事をして頂く様にしている。聞き出す事が難しい方に関しては、いろいろ行って頂き本人様の反応を見るなどして対応している	表情が明るくなるかどうかを観察し、思いの把握に努めている。家族から「演劇が好きだった」と聞き、そのようなテレビを見ると懐かしい様子となる。食事で嫌いなものはむせるが好きな甘いものは飲み込める人もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で過ごされていた方々が家と同じように過ごして頂く事は難しくても、少しでも近づける様にご本人やご家族様に確認し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人一人が入居者様の生活の場面で出てきた言動、動きをケース記録に残す事で、その場に居なかったスタッフにも伝え把握している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント時やユニット会議の際に話し合いを行いプランに反映できるようにしている。計画作成担当者が一方的に作成するのではなく、ケアカンファを通しご本人様や、ご家族様の意向やスタッフの意見を反映させながら作成している。	園芸をやりたい人たちに、作りたい野菜、水やりの世話等を計画した。卓球が上手だった人が今でも上手だということを発見し、他のホームの入居者と卓球を楽しむと共に、コミュニケーションも向上した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人様の状況を、様子を事細かく記録に残し、その場に居なかったスタッフも分かるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様が希望される時やスタッフの方でも必要と判断した場合はそのニーズに合わせたサービスを取り入れる様にしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な物や本人様から希望があった時など近くのスーパーへ買い物に行き好きな物を選んでいただける機会を作っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様のご希望される病院に通って頂く様受診の手伝いを行っている。変わりがある場合は受診後にご家族様に電話報告を行っている	かかりつけ医を利用する入居者は数名で、かつての近隣の方々との交流も楽しみにしている。家族と受診した時は報告を聞き、受診報告書に記入する。往診を受けている人は入居者の約3分の1である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調不良、血圧、排泄の変動などがあれば看護師に報告し指示を仰ぐようにしている。看護師不在の時は、管理者やかかりつけ医に連絡し指示を仰ぎ必要であれば受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間が短く済むように、入院後早めに入院先の医師や相談員と連携し情報交換を行っている。又、ご家族様とも密に連携を取るようになっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様に聴取した際ホームでの看取りを希望される場合は必要に応じて往診して頂ける医師に紹介している。本人に安心して過ごして頂けるよう支援させていただいている	管理者が看護師も交えて看取りの勉強会を実施している。看取りの経験から、入居者が平穏に起床を迎えることが一日の大切な始まりと喜び、常に悔いのないお世話をしよう心掛け、介護にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員一人保一人が利用者の急変時に備えている。急変や事故発生時はユニット長、管理者連絡を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しており、火災時地震時を想定して年3回避難訓練を行っている	夜間想定訓練を2回実施した。「無駄な動きが多かった」「避難した人の把握不十分」等の反省を活かし、避難方法の改善に活かした。訓練に大家さんが参加する。目標達成計画は改善した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人のプライバシーや自尊心に気を付けながら声がけを行っている。	入居者が「できる」と思っている部分を尊重し、過度に手助けしないよう留意している。トイレを失敗した時は「すぐ着替えができるから大丈夫です」と何事もなかったように素早く対応し、心配をかけないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフから「どうする?」「何したい?」等と相手に問いかけて考える事をして頂いている。意見の表出が難しい方に関してはその方の状態に合わせて質問するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や、入浴のタイミング等、可能な限りその方が過ごしてきた習慣をづづけて頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着るものは出来るだけ本人様に選んで頂き、外出の行事の際はお化粧の手伝いや、コーディネートの手伝いを行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物を食べて頂ける様な機会を作ることはもちろん、食事の続けることが出来るように食事の形態や食材などを選び負担にならないように提供している。又、盛り付けの工夫なども行っている。	献立はユニットごと職員が作り、食材は配達してもらい調理は職員がする。入居者は米とぎ、もやしの根取り等をする。煮物やお肉の好きな人が多い。栄養バランスは同法人の管理栄養士に見てもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表へと記入を行い把握し不足しうであれば補食の提供や代替品の提供を行っている。又、その方一人一人に合わせた食形態を工夫し、食事をするという事を継続して頂いている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能な方であれば、声がけ、セッティングを行い、難しい方であれば介助させていただく事で口腔内の清潔を保持している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせたトイレ誘導を行ったり、自ら行かれる方でも長時間行かれないう時は自尊心に気を付けながら声がけし行かれる事を促している	排泄の自立に近い人が約3分の1、オムツは数名で他はリハビリパンツとパッドである。トイレ誘導に努めており、応じない時には「トイレ掃除終わったところだから」とか「今しておく朝までゆっくりできますよ」等声掛けをする。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に対しては水分を多めにとって頂いたり、朝に牛乳を飲んでいただく事で解消につなげられるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めずに出来るだけ語本人様のご希望に添えるように対応している。入浴前にバイタルなども測定し入浴時間など配慮するようにしている。	週2～3回入浴する。入浴剤、柚子湯、菖蒲湯等を楽しむ。一番風呂を好む人もいる。拒む時には「ご飯の後でゆっくりできるから」「明日、お出掛けだから」等声を掛ける。重度の方も職員2人の支援で入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休まれる際温度調節に気を配り、安眠できるよう無理にお勧めするのではなく、休まれる気分になれる様声がけしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は、誤薬等しないように確認を行い、処方に変更があった場合は、なぜ変更になったのかを含めて申し送るようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方が何をやりたいかを、発言、行動から読み取るようにし、ご家族様の情報なども職員同士で共有し、機会の提供に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望には出来るだけ対応させて頂いている。誕生日などは希望されている場所へ外出する事が出来る様支援している	季節の外出は、春の花見、夏の秋保・里センターの七夕、秋の紅葉狩り、正月の初詣等である。日常的には近所を散歩する。重度の方も隣接している保育園を訪問し、園児との交流を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、自己管理が可能な方であれば、本人様にも管理して頂く様に支援している。また、それぞれの財布に名前を分かりやすく記入し、買物の際に持っていたく事で安心して買い物を楽しんで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話の取次ぎを行い、耳が遠い方に関してはスタッフが代行するなどして対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには季節ごとに飾りつけを行い花なども手入れして頂けるようにしている。屋外のプランターでは花や野菜などを育て、季節感を感じられるようにしている	食堂に、入居者の習字、塗り絵、貼り絵を飾り、職員が作った大きな雪だるまや干支の猿の飾りを飾っている。玄関に、ホームの活動状況の写真を貼っており、個人の写真は家族が持ち帰れるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席などある程度固定された席の他にレクリエーションや家事などの際は同じ趣味の方等が集まれるように席をその都度変えて対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思いでの物や、好きな写真を飾られたり、使い慣れたものを持って来られており部屋を使いやすい様に作られている。	空調、ベッド、タンスは備え付けである。使い慣れた学習机やタンスを持ち込み、家族の写真等を飾っている。ベッドはエアコンの直下を避け、入居者の動きを考慮した位置・向きにする等、暮らしやすい配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の出来ること、分かる事を職員間で情報を共有し把握する事で継続して頂けるよう支援している		